

授業実践の まとめ

小学校図画工作科 第3学年

題材名 顔を出したら…（全4時間）

1 題材について

本題材では、顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくる活動を通して、顔を出した人もその様子を見た人も楽しくなるように発想や構想をし、段ボールや水彩絵の具などの身近な材料や用具を適切に扱いながら、ねらいとする資質・能力を身に付けることができるようにします。表したいことに合わせて、段ボールの形や穴の位置、着色などを工夫して表します。さらに、ほかの材料を使って、顔を出したときにもっと楽しくなる工夫をして表すことができるようにします。また、互いに作品を紹介したり、顔を出し合ったりしながら鑑賞活動を行うことで、造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりすることができるようにします。

📄 [「題材デザイン FIRST STEP」](#)

2 題材の目標

- (1) ・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かる。
 - ・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (2) ・穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
 - ・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。
- (3) ・進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。 ・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

* 太字は、評価の場面となる学習活動を示しています。

時	●学習のねらい・学習活動	学習評価	
		指導に生かす評価	記録に残す評価
1	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したこと、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。	児童の様子（知、発、態） 対話の内容（知、発、態） ワークシートの記述（発）	
2	・段ボールを使ってパネルをつくることを理解し、表したいことを見付けて、段ボールに穴を開ける。 ・水彩絵の具を使って、表したいことを表す。 ・顔を出したときにより楽しくなるための表し方などを考える。	児童の様子（技） 作品の確認（技）	児童の様子（発、態） 対話の内容（発、態） 作品の確認（発、態） ワークシートの記述（発、態）
3	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 ・水彩絵の具やほかの材料を使って、顔を出したときにより楽しくなるように表し方を工夫して表す。 ・作品についての紹介文を書く。		児童の様子（知、技、態） 対話の内容（知、技、態） 作品の確認（知、技、態） ワークシートの記述（技、態）
4	●実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・互いに作品を紹介し、鑑賞する。 ・学習を振り返る。		児童の様子（鑑、態） 対話の内容（鑑、態） 作品の確認（態） ワークシートの記述（鑑、態）

📎 本題材の詳細については「[学習指導プラン](#)」を御参照ください。

題材の目標や評価規準の設定、指導と評価の計画の作成については、国立教育政策研究所『[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)』や佐賀県教育センターWeb「[題材デザイン FIRST STEP](#)」、[『学習評価の進め方』](#)、[『学習評価 FIRST STEP』](#)を御参照ください。



5 本題材における指導と評価の実践

1：ねらいとする資質・能力の育成に向けて（授業前）

児童の資質・能力を育成するためには、指導と評価の一体化を図ることが大切です。指導と評価の一体化を図るに当たっては、授業を行う前に、評価規準や指導と評価の計画を踏まえて、**資料1**のように「おおむね満足できる」状況（B）としての児童の姿を具体的に予測しました。その姿を判断のポイントとし、児童の学習状況を把握することで、児童の様々な姿を捉えて学習評価につなげたり、教師の指導改善につなげたりすることができます。

知識	表したいことに合わせて、段ボールの形や穴の位置を決め、水彩絵の具の色を選んでいる。
技能	段ボールに色が定着するように水の量を調整しながら水彩絵の具を扱うとともに、段ボールやそのほかの材料の特徴を生かしたり組み合わせたりして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。
思考・判断・表現 （発想や構想）	穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、これまでに見たことがあるパネルを想起して表したいことを見付け、段ボールの形や穴の位置、選んだ色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考え、作品に表したりワークシートに記入したりしている。
思考・判断・表現 （鑑賞）	友人の作品の紹介を聞きながら、表したいことやその表し方の工夫に気付いたり、顔を出した様子を見て造形的なよさや面白さを見付けたりして、ワークシートに記入している。
主体的に学習に 取り組む態度	顔を出したら楽しくなるように段ボールの形や穴の位置を考え、表したいことに合わせて表し方を工夫して表現したり、互いにパネルから顔を出して鑑賞したりしている。

資料1 具体的に予測した観点別「おおむね満足できる」状況（B）としての児童の姿

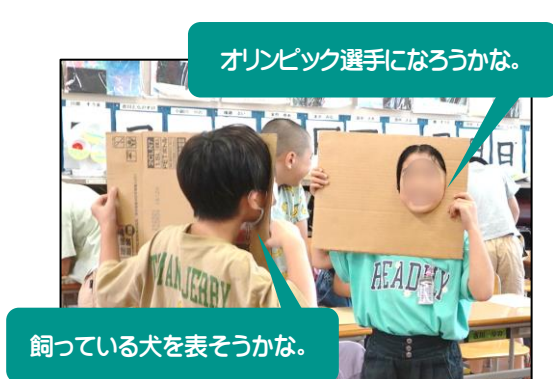
2：児童が表したいことを見付け、どのように表すかについて考えるために（1～2時間目）

（1）学習状況に応じて、児童が学習のねらいを達成するための手立てをとる

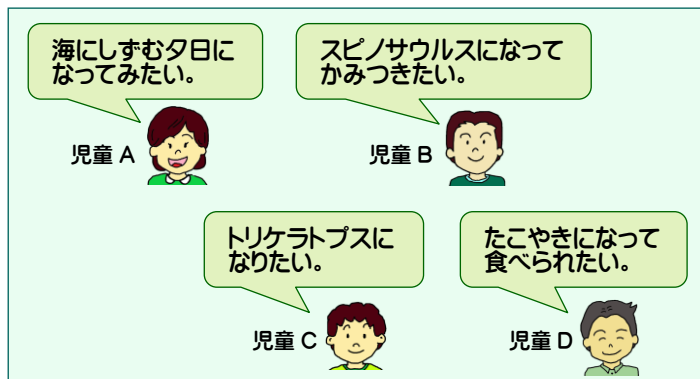
1時間目は、穴の開いた段ボールを提示した後に参考となるパネルの写真を見る活動を行い、児童がイメージをもちながら表したいことを見付けることができるようにし、2時間目の水彩絵の具を使って表す活動につなげることができるようにしました。

まず、穴の開いた段ボールを提示し、パネルをつくることを伝えました。次に、参考となるパネルの写真を見ながら見たことのあるパネルについて学級全体で話し合ったあとに、表したいことをワークシートに記入するように促しました。しかし、これらの活動だけでは表したいことを見付けることができない児童もいました。

そこで、現時点で考えていることや自分の好きなことなどを話し合う活動を取り入れました。その際、導入時に提示した穴の開いた段ボールを渡し、児童が顔を出しながら話し合うことができるようにしました（**資料2**）。自分の考えを伝えたり友人のアイデアを聞いたりしたことで、全員が表したいことを見付け、ワークシートに記入することができました（**資料3**）。



資料2 表したいことを話し合う様子

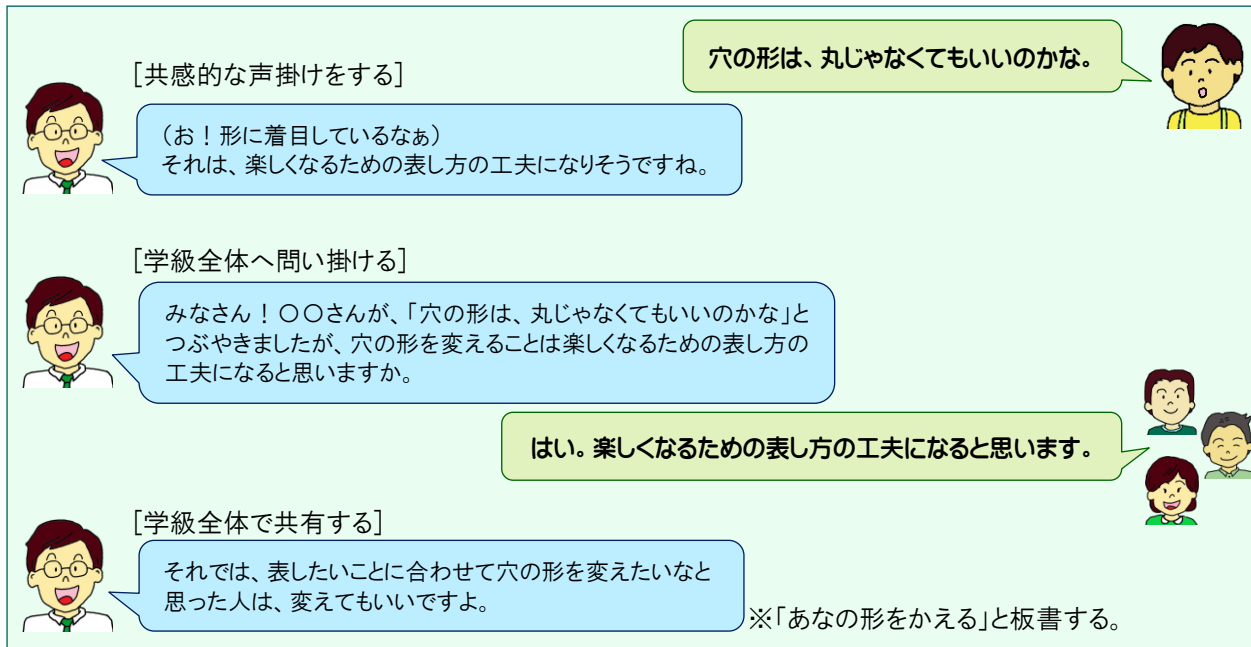


資料3 児童が考えたパネルに表したいことの例

（2）共感的な声掛けをし、学級全体で共有する

ア 児童のつぶやきへの共感的な声掛け

穴の位置を決める活動では、穴の位置のイメージを明確にできるように楕円形の型紙を準備しました。型紙を段ボールに当てながら楕円の形に着目した児童が、穴の形を工夫したいと考え、つぶやきました。そのつぶやきに対して共感的な声掛けをし、学級全体で共有することで、ほかの児童が表したいことをどのように表すかについて考えを広げることができると考えました。



[共感的な声掛けをする]

（お！形に着目しているなあ）
それは、楽しくなるための表し方の工夫になりそうですね。

穴の形は、丸じゃなくてもいいのかな。

[学級全体へ問い掛ける]

みなさん！〇〇さんが、「穴の形は、丸じゃなくてもいいのかな」とつぶやきましたが、穴の形を変えることは楽しくなるための表し方の工夫になると思いますか。

はい。楽しくなるための表し方の工夫になると思います。

[学級全体で共有する]

それでは、表したいことに合わせて穴の形を変えたいと思った人は、変えてもいいですよ。

※「あなの形をかえる」と板書する。

このあとの段ボールに穴を開ける活動中には、段ボールの四角い形に着目した別の児童が、段ボールの形を工夫したいと考え、「段ボールの形も変えていいのかな」とつぶやきました。このつぶやきに対し、上記と同様のやり取りをして、「だんボールの形をかえる」と板書しました。

このようなやり取りをして、学級全体で共有したことにより、ほかの児童がどのような形にするかについて考えを広げることができ、表したいことに合わせて穴の形や段ボールの形を変える児童もいました（資料4）。



資料4 楕円の一部を直線にした児童

イ 着色の工夫への共感的な声掛け

水彩絵の具を使って表したいことを表す活動では、個人で持っている筆のほかに、共用の用具として教師が刷毛を準備し、児童が表したいことに合わせて用具を選択できるようにしました。

夕日をモチーフにつくっている児童Aは、始めは刷毛を使って、空と海の部分がグラデーションになるように着色していました。その着色の工夫に対して、「だんだんと色が変わっていて素敵だね」と共感的な声掛けをしました。その後、しばらく児童Aの様子を観察していると、次は筆を使って細かな部分の色の調整を行い、グラデーションの質を高めようとしていました（資料5）。



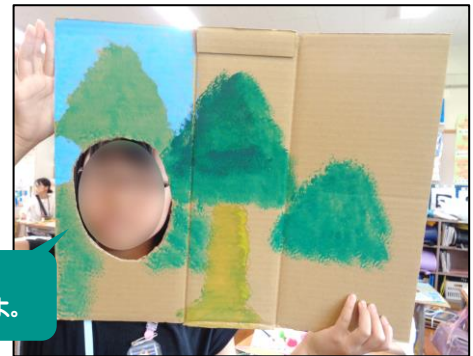
資料5 筆を使って細かな調整をする児童A

スピノサウルスをモチーフにつくっている児童Bは、刷毛を使って叩くように着色していました。その思いを引き出すために「なぜ叩くように色を塗っているのですか？」と尋ねると、児童Bは「スピノサウルスのごつごつした感じを表したいからです」と答えました。それに対し、「なるほど。本物の恐竜の肌みたいですね」と共感的な声掛けをしました（資料6）。



資料6 刷毛で恐竜の肌を表現した児童B

児童Aと児童Bの着色の工夫を学級全体で共有したことにより、ほかの児童がどのように着色するかについて考えを広げることができ、表したいことに合わせて用具を選択したり、着色を工夫したりする児童がいました（資料7）。



木の葉っぱを表すために
刷毛でたたくようにぬったよ。

資料7 友人の工夫を参考にした児童

（3）児童の活動が停滞している原因を把握し、改善を図るための手立てをとる

ワークシートに「トリケラトプスになりたい」と記入していた児童Cは、段ボールに穴を開け、水彩絵の具で着色しようとする段階で活動が停滞していました。そこで、活動が停滞している原因を把握し、改善を図るために、児童Cの様子を観察しながら声掛けをしました。

[児童の表したいことを確認する] （活動が停滞しているなあ。） 表したいことは何と書きましたか。	ワークシートを見せながら …トリケラトプスになりたい。
[児童の思いを確認する] 児童の様子や表情を観察した上で トリケラトプスをつくりたいのですか？	首をかしげながら …。
[改善を図るための方法を提案する] 段ボールを回してみたらどうか。 新たに表したいことが思い付くかもしれませんよ。	段ボールを回しながら …。
（このまま話を続けたら、教師の思いを押し付けてしまいそうだな。）	
[別の方法を提案する] 友達の活動を見て来てもいいですよ。	はい。

児童Cの様子を観察しながら声掛けをしたことで、児童Cがワークシートに記入した表したいことについて悩んでいることを把握することができました。また、児童Cにとって、友人の活動を見ることが改善を図るための適切な方法であることが分かりました。

このあと、児童Cは友人の元へ行き、活動を見たり話をしたりしました。しばらくして席に戻った児童Cは、青と白の絵の具を混ぜ、刷毛で大胆に着色し始めました（資料8）。その姿から表したいことを見付けどのように表すかを考えることができたことと捉え、学習状況を把握するために「表したいことは何になりましたか？」と尋ねると、「サメ！」と嬉しそうに答えました。詳しく話を聞いてみると、友人の活動を見たり話をしたりして着目した「歯」から、「サメを表したい」と発想を広げたことが分かりました。



資料8 刷毛で大胆に着色する児童C

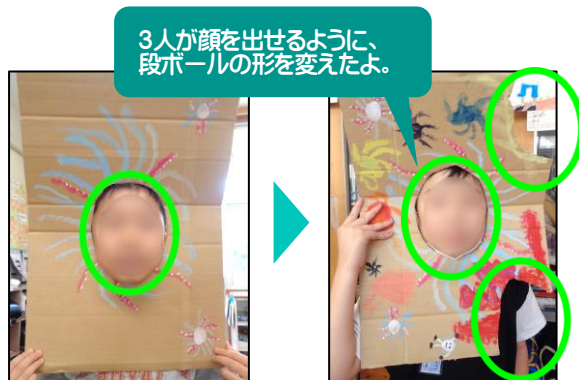
教師や友人との関わりによって変容した児童Cの姿は、友人の活動を見たり友人と話をしたりしたことで表したいことを見付け、形や色を生かしながら、どのように表すかについて考えた姿として捉え、「思考・判断・表現（発想や構想）」の観点で記録に残しました。

なお、具体的に予測した姿以外に、「思考・判断・表現（発想や構想）」の観点において、「友人と話し合うことを通して、顔を出したら楽しくなるようなモチーフや状況など表したいことを見付けている」「穴から顔を出したときの様子をイメージしながら、どのように表すかについて考えている」などの姿を、「おおむね満足できる」状況（B）としました。

3：児童が表したいことに合わせて表し方を工夫して表すために（3時間目）

（1）前時までの学習を振り返り、工夫を共有する

1時間目及び2時間目の学習で共有した「あなの形をかえる」「だんボールの形をかえる」「着色を工夫する」の3つを確認し、板書しました。そうすることで、作品をつくる過程で広がった発想や構想に合わせて、児童が工夫して表すことにつなげました（資料9、10）。



資料9 最終的に段ボールの形を変えた児童



資料10 黒で縁取り、色を明確にした児童

（2）材料に触れることができる場を設定する

ストローや割りばし、綿などを広げて並べ、児童が自由に触れることができるように材料コーナーを設置しました。児童は、材料に触れ、手や体全体を働かせることで、表したいことに合う材料を選択していました（資料11）。表したいことをどのように表すかについて悩んでいる児童に対しては、材料コーナーにある段ボールの端材を使って着色を試すように促したり、材料の組合せを試すように促したりすることで、児童が表し方を工夫して表すことにつなげました。



資料11 綿の感触を確かめる児童

（3）夢中になっている児童の様子を観察しながら学習状況を把握する

たこ焼きをモチーフにつくっている児童Dは、まず、2目に白と緑で着色した部分に木工用接着剤を付け、白い部分には綿、緑の部分には切ったストローを付けていました。その思いを引き出すために「何を表しているのですか」と尋ねると、児童Dは「大根おろしとネギを表しています」と答えました。次に、竹串で小さな穴を開けて、竹串をはめ込むように付けようとしていましたが、思い通りに付けることができず、試行錯誤を繰り返していました（資料12）。



資料12 試行錯誤を繰り返す児童D

このような場面における教師の関わりとして、テープや木工用接着剤を使うことを促す声掛けをすることが考えられます。しかし、試行錯誤を繰り返す児童Dの様子から、それらを使わずに竹串をパネルに付けたいという思いを感じ取ったので、あえて声掛けをせずに、製作に夢中になっている様子を観察しながら学習状況を把握することにしました。



資料13 笑顔でパネルから顔を出す児童D

その後、児童Dは、材料や用具の特徴を生かし、自分で工夫した表し方で竹串を付けることができ、笑顔でパネルから顔を出していました（資料13）。

材料や用具の特徴を生かし、表したいことに合わせてつくりかえる児童Dの姿は、材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表した姿として捉え、「技能」の観点で記録に残しました。また、よりよい表現を目指し、試行錯誤を繰り返しながら粘り強く取り組んだ姿は、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で記録に残しました。

なお、具体的に予測した姿以外に、「技能」の観点において、「表したいことに合わせて、着色の工夫をして表している」「ほかの材料の形を変えたり、ほかの材料同士を組み合わせたりして作品に付け加えている」などの姿を「おおむね満足できる」状況（B）としました。「主体的に学習に取り組む態度」の観点においては、「友人の工夫を参考にして、自分の製作に取り入れている」「いろいろな材料に触れながら、表し方を思い付いている」などの姿を「おおむね満足できる」状況（B）としました。

4：鑑賞活動において、児童が自分の見方や考え方を広げるために（4時間目）

4時間目は、児童が互いに、何をモチーフにして、どのような工夫をしたのかを知るために、児童が「題名」「工夫したところ」「顔を出すときのおすすめの顔」を紹介し、パネルから顔を出して見合う活動を取り入れた鑑賞活動を行うことで、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができるようにしました。

形や色などの工夫、材料の使い方に着目して鑑賞するよう伝えて、鑑賞活動を始めました（資料14）。そして、鑑賞したあとに、友人の作品のよいと思ったところや面白いと思ったところをワークシートに記入しました。



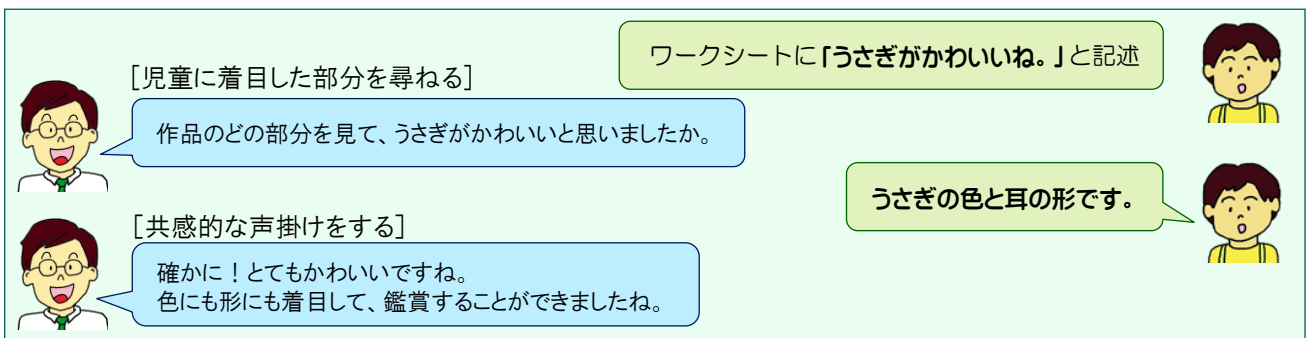
資料14 パネルから顔を出して見合う様子

ワークシートの記述は、具体的に予測した児童の姿に照らしながら、児童がどの部分に着目をして鑑賞したのかを把握しました（資料15）。

・ハムスターがたくさん運動したんだね。 ・ひつじのもふもふがひょうげんできていた。 ⇒表したいことに関する記述	・わたを色づけているところがおもしろい。 ・だんボールを2まい重ねているところがすごい。 ⇒表し方に関する記述
・いちごが食べられた形になっているところがすごい。 ・三人が顔を出せるところがいいね。 ⇒形に関する記述（造形的なよさや面白さ）	・目のぶぶんが白と黒でおもしろいです。 ・まわりが黒くなっている見えやすい。 ⇒色に関する記述（造形的なよさや面白さ）

資料15 ワークシートの記述の把握（原文ママ）

一方で、児童の記述には、着目した部分が明確ではないものもありました。そのような場合は、資料16のように、着目した部分を明確にするために児童へ声掛けをしました。



資料16 着目した部分が明確でない記述をした児童への声掛けの例

なお、具体的に予測した姿以外に、「思考・判断・表現（鑑賞）」の観点において、「パネルから顔を出した友人の姿を見ることを楽しみながら、造形的なよさや面白さを見付けている」「使っている材料に着目しながら、表し方の工夫に気付いている」などの姿を「おおむね満足できる」状況（B）とし、ワークシートの記述と関連付けながら、記録に残しました。

6 授業実践を終えて

題材を通して、ねらいとする資質・能力を育成するためには、題材デザインに沿って指導と評価の計画を立て、「おおむね満足できる」状況（B）としての児童の姿を具体的に予測した上で、授業を行うことが大切だと考えます。観点ごとに児童の姿を具体的に予測したことで、その姿を判断のポイントとして児童の学習状況を把握することができ、学習評価や教師の指導改善につなげることができました。

共感的な声掛けをして学級全体で共有したり、活動が停滞している児童と対話をしたりするなど児童の活動や状況に合わせて指導の改善を行ったことで、児童の学習改善につなげることができました。児童は、活動しながら様々な思いをもつので、その思いを大切に、評価基準との関連を考えて指導に生かすことで、ねらいとする資質・能力の育成を図ることができると思いました。

学習評価において留意すべき点としては、教師が具体的に予測した児童の姿だけでは評価しないということです。図画工作科では、一人一人の児童が自分の思いを実現することを大切にしているため、「おおむね満足できる」状況（B）の姿は多様に現れます。具体的に予測した児童の姿を判断のポイントとして児童の学習状況を把握することで、教師の見取りの質が向上していくと思いました。

児童の資質・能力を育成するために、指導と評価の一体化を図ることは不可欠です。題材デザインに沿って指導と評価の計画を立て、「おおむね満足できる」状況（B）としての児童の姿を具体的に予測した上で授業を行い、指導と評価を繰り返し行いながら、教師の指導改善及び児童の学習改善につなげることが大切だと思います。今後も、児童の資質・能力を育成することができるよう、指導と評価の一体化を図る授業づくりを続けていこうと思います。